

……第39回……

地域医療現地研究会



雲南市「三刀屋河川敷」

神話と歴史のふるさとで 地域包括医療・ケアを語る

～人口減少社会への挑戦
地域共生社会の実現を目指して～



雲南市「龍頭が滝」



雲南市「山王寺の棚田」

会 場

ホテル一畑（松江市）

研究施設

雲南市立病院・附属掛合診療所
鍋山交流センター

開催日

令和7年 5/30(金) ▶ 31(土)



島根県
雲南市
unnan



雲南市「加茂岩倉遺跡」

……主催……

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会
公益社団法人国民健康保険中央会
島根県国民健康保険診療施設協議会
島根県国民健康保険団体連合会

雲南市立病院

雲南市立病院は、島根県東南部に位置する雲南地域（雲南市とその周辺の奥出雲町、飯南町）の中核病院です。

雲南地域はそのまま二次医療圏を形成していますが、その面積は東京23区の約2倍もある一方、人口はわずか5万人足らずで、典型的な中山間部の過疎地です。ここを当院をはじめ、2つの町立病院、2つの民間病院（一つは精神科単科）が入院機能を持ちながら地域の生活を支えています。当院の歴史は約80年前に遡ります。戦後間もなく県の農業会によって「雲南共存病院」（50床）として開設、ほどなく国民健康保険診療施設（国保直診）となりました。その後雲南地域10か町村（当時）で構成される組合立の自治体立病院となりましたが、平成の大合併等が契機となり、2011年に雲南市単独経営の市立病院となりました。当院は病床数281床のケアミックス型病院で、15診療科を有し、二次救急から療養期まで幅広い医療を提供しています。雲南二次医療圏の高齢化率は40%を超えて久しく、人口減少率も年10%に迫る勢いです。それを支える医療提供体制については、医師偏在指数で全国335医療圏中、ほぼ最下位に位置するなど医療資源も乏しい地域ですが、当地では総合診療医が核となり、医療のみならず介護、福祉や住民組織など、様々なステークホルダーとの連携を緊密にとることによって地域包括医療・ケアの提供に努めて住民生活を支えています。



掛合診療所



1958年（昭和33年）、合併前の構成自治体である掛合町が国民健康保険診療施設として設立され、2019年に経営移管して市立病院の附属診療所となりました。

経営移管後は、市立病院の地域ケア科（総合診療医）が常駐して、地域医療の維持に従事するとともに、地域基盤型医学教育の拠点として、医学生や研修医の研修の場ともなっています。また、診療所には診療看護師（NP）も在籍しており、遠隔医療への参画等、NPの働き方、活用法のロールモデルとなることを目指しています。

診療所は、市立病院から南西方向に約20km、中国山地に向かう山間地域、掛合町の中心部にあります。掛合町は江戸時代から街道沿いの在郷町として発展した町で、商業活動のほか、製鉄業や醸造業でも賑わったそうです。とくに醸造業といえば、第74代内閣総理大臣、故竹下登先生の生家もこの町の造り酒屋で、現在も優れた日本酒を生み出しています。

鍋山交流センター（住民団体『躍動鍋山』の拠点）

“躍動鍋山”は、雲南市三刀屋町鍋山地区（人口1229人、高齢化率48%：令和5年）の地域自主組織※です。少子、高齢化、人口減少により十分な行政サービスが入りにくい地域において、自治会・PTA・消防団・交通安全協会・郵便局・その他地域を支える様々な関係者、団体が相互に連携と協働して、地域における共生社会の実現を目指しています。とくに医療においては、地区内に住む現役や退職看護師による医療ボランティアチームが結成され、高齢者や社会的弱者の健康測定や健康相談、集いの場の提供など、身近な生活の場面での声掛けや見守りを行い、地域包括医療・ケアの実現に一役買っています。



※地域自主組織とは、人口減少、市町村合併による広域化と行政サービスの限界による地域の崩壊を防ぐための施策として注目されている住民主体の地方自治一形態です。基礎自治体である市町村よりも狭い範囲において、地域の公共的活動等を、行政との契約に基づいて担うほか、住民間の話し合いや活動の場を提供することにより、社会や地域における信頼関係や結びつきを醸成して、公に頼らず自主的に地域の衰退を防ぐ方策として注目されています。